

2 学校支援のためのコーディネーターに関する調査（地域連携教員用） 問7 記述内容一覧

- 地域連携を推進するにあたり、コーディネーターの配置は不可欠と思われる。
- コーディネーターのおかげでとてもスムーズに地域と連携がとれている。活動もとても積極的で、放課後子ども教室等で様々な提案をしてくれるので、子どもたちも有意義な活動ができています。
- コーディネーターが週に3日、学校に来てくれるので、とても助かっている。
- 学校と地域の双方向の連携を実現する。地域の教育力と学校との連携によって、より充実した活動を展開したい。その際の、まさにコーディネーターの役割を実現してもらいたい。
- 「家庭学習支援」や「図書室支援」「読み聞かせ」等の各種ボランティアに対して、コーディネーターが円滑な連絡・調整を行っている。
- 中学校においては、生徒自身ができることが多くなるので、コーディネーターさんに依頼することは小学校ほど多くはないが、とても大切な活動としてくれているのは確かなので、今後も継続配置を希望する。
- 学校単位で難しいのであれば、中学校区単位でコーディネーターがいるとたいへんありがたい。
- 学校独自のコーディネーターの必要性は十分認識している。放課後スクールが今年立ち上がったので、これを契機に人選を重ね、学校独自のコーディネーター配置を図ってきたい。
- コーディネーターの力を有効に活用することが、校内行事の企画・運営に教員の負担の軽減、児童への有効な指導につながると思う。
- 社会に開かれた学校づくりにおいて、コーディネーターの果たす役割は大きい。
- 新たな学校支援ボランティアが必要となったとき、気軽に相談できるコーディネーターが身近にいたらありがたい。
- 地域へのコーディネーター配置を強く希望する。
- 今まで積み重ねてきた経験から、学校独自に地域の方々に発掘し、子どもたちに生きた学習の場を与えている。今後社会の様々なニーズと変化に対応するには、地域をまとめるコーディネーターの必要性をとて感じている。
- コーディネーターのお陰で、様々な方がボランティアとして学校に来てくれ、教育活動の充実が図れた。学校の要望に快く応えてくれてありがたい。
- 地域のコーディネーターの代わりに、市の生涯学習情報センターが学校支援ボランティアバンクを設け、連携の手助けを行ってくれているが、各学校ごとに地域を把握しているコーディネーターが配置されるとありがたい。
- コーディネーターの配置について情報を集め、研修を積み、いずれは本校でも正式にコーディネーターが配置できればと考えている。地域の力を引き出し、子どもたちの学習を含む諸活動に生かしていきたい。
- これからの教育活動にコーディネーターの存在はとても重要であると考えられるが、コーディネーターの具体的な活用方法や候補者の選択など、解決しなくてはならない諸問題が存在している。
- 地域の教育力を活用するためには今後重要な役職であると考え。地域の実情をよく把握した上での適切な活動計画が必要。
- 本校では、コーディネーターが配置されているため、地域連携に関する活動が円滑に実施されていると思う。
- コーディネーターの活躍により、外部人材活用がより推進されている。地域連携教員としては、教師間の情報の共有化や教育活動への効果的な活用方法をコーディネーターと共に模索していかなければならないと感じている。
- 今年度より、学校ごとに地域コーディネーターが配置され、地域学習に関する相談や、外部人材の選定や確保等についての協力が得られることを期待している。地域連携の窓口として、より一層活用していきたい。
- 現在、地域コーディネーターはいないが、公民館の館長がコーディネーターのような役割を担っている。なるべく早く地域コーディネーターが見つかるとうい。
- 本校では、公民館と協力してやっている。コーディネーター的なことは公民館が中心となってやってくれるが、なかなか時間がとれないということと、異動などで係がかわってしまい、一から関係づくりを行うなどの問題が課題となっている。
- 子どもにとって、様々な人たちと日常的に関わりあうことは、豊かな成長につながる。学校と地域をつなげるためにもコーディネーターの配置は必要不可欠であると思われる。
- コーディネーターの配置により、情報の集約が容易になった。また、コーディネーターと良好な関係を保つことで、何でも気軽に相談できる間柄になることを意識している。
- 本校は数年後に統合されることになっており、現在行っている地域連携を統合後、どのような形で継続していくかが課題となっている。現在行っている地域連携のいくつかを統合後も継続して行っていくためには、コーディネーターの配置が必要と考えている。
- 地域との連携を新たに開拓するときにコーディネーター的な方(相談できる方)がいるとういと思う。
- 本地区にも地域コーディネーターがいてくれるとうい。
- 学校支援ボランティアが確保でき、学校と地域の連携に関する活動の強力なパイプ役になってもらえ、充実した活動が期待できる。
- 「地域人材を活用しての授業をしたいのですが。」と同僚から相談を受けたり、市の生涯学習課から出前講座の資料をいただいたりしている。学校の地域連携活動について、必要があったときのみでない協力をいただけるコーディネーターがいて、スムーズに学校支援をしてもらえるようになるととてもありがたいと思う。
- 各学校の地域の実情に応じてコーディネーターを設置したり、しなかったりすれば良いのではないかな。一律にコーディネーターを配置したからといってうまく機能するとは限らないのではないかなと思う。
- 町の教育委員会や生涯学習課でいろいろ手配してくださるので、あえてコーディネーターの必要性を感じない。
- 地域連携教員が指名される前から町の生涯学習課の主導、支援もあり、学校における地域の教育資源を生かした教育活動は盛んに行われ、根づいていた。さらに、必要なことは学校支援ボランティアなどを通して人材を募っている。コーディネーターがいるに越したことはないが、管理職や地域

連携教員、地域の学校支援ボランティア、町生涯学習課、町民活動支援センターなど今あるネットワークが学校と地域人材をつなぐ役目を果たしているため、大きな困り感はない。

- 小学校区でのコーディネーターも必要だが、小中一貫教育を進めるにあたり、中学校区、公民館単位でのコーディネーターが必要だと思う。
- 本校のコーディネーターは、忙しい立場であるにもかかわらず、学習支援者を探すのに奔走してくれている。生活科における引率支援や家庭科でのソーイング関係、夏休み明けの作品整理など、多くの場で協力してくれることで良質な学習を確保できている。しかしながら、要望すればするほどコーディネーターの負担が大きくなるため、依頼内容を厳選しているのが現状である。
- 本校のコーディネーターはとても協力的である。その分、負担も大きいように感じる。また、次期のコーディネーターを探すことが難しい。
- 2名のコーディネーターがそれぞれの持ち味を発揮し、うまく役割を分担して活動してくれているのでとても助かっている。ただ、いつまでも引き受けてもらえるわけではないので、交代をスムーズに行えるような環境づくりを考えておかなければならないと思っている。
- 現在のコーディネーターはずっと続けていただきたいと思うようなとても素晴らしい方で、教職員との信頼関係も十分構築されている。今後の大きな課題は、その方の後継者である。
- 本校のコーディネーターは長く活動してくれており、教員とも近い関係で接してくれるので、ボランティアを必要とするときには雑談的に相談できるような雰囲気、自然と地域と学校の関係が近くなっているように感じている。ただ、今後役を退かれるようなときに、コーディネーターになるような方が他にいないかどうかが地域との連携をいい状態で進めていくポイントになると思う。
- コーディネーターの活動はとてありがたいのだが、この役にふさわしく中心となって長期間担当して下さる方を確保することはなかなか難しい。常に次の候補の方を探す必要がある。
- 地域住民の高齢化や少子化などにより、ボランティアの確保が年々難しくなっていることに加え、コーディネーターの交代時期も迫っているという現状がある。活動の継続や円滑な引継ぎが行えるか危惧しているところである。
- 現在のコーディネーターは3年目になるが、今後継続してくれるかは未定。コーディネーターを新たに見つけるのが大変。
- 一人の方の期間が長くなることが考えられ、交代のタイミングが難しい。
- 本地域は、積極的に学校支援ボランティアを紹介してもらえているので助かっている。しかし、高齢化のため、今後は後継者を養成しなければならないと思う。もっと若い方がどんどんコーディネーターとして活躍できる場を作らなければならないと思う。
- 本校の地域コーディネーターは、社会福祉協議会会長をはじめとして多くの役職を兼ねているのでとても忙しい方である。地域をよく知っている方なので適任者であると思うが、次につながる人材を育成する必要があると思う。
- コーディネーターが高齢のため、後継者の育成が急務となっている。
- 現状よりも多く予算を確保し、複数配置ができるとよい。
- 本校のコーディネーターは、よくやってくれている。ただ、本人は言っていないが、負担を大きく感じる。コーディネーターは複数人いると都合がよいと思う。現在、人を探している段階である。ちなみに、地域連携教員も複数人いると助かる。
- 現在3名のコーディネーターがいるが、適切な人数かと思う。多すぎても意見がまとまらず、活動しにくいのかと思う。とても意欲的で、協力的なので助かっている。
- 可能であれば、複数の方をコーディネーターとして指名できるようにしていきたい。
- コーディネーターとなる方は、仕事をしながら活動という形になることが多い。「活動したい」「協力したい」という思いを継続して持ってもらうため、複数配置をしたり、活動の幅を広げるためにも様々な世代の方々にかかわってもらったりするなどの体制づくりを工夫した方がよいと感じた。(地域の実態に合わせて)
- 活動内容が多岐に渡るので、コーディネーターは複数・男女配置が必要だと思われる。
- コーディネーターが各学校1名だと、依頼が多くて大変である。また、将来コーディネーターの引継ぎが円滑に行われるよう年齢層を考慮した複数配置を考えるべきだと思う。
- 現在、本校のコーディネーターは男性ですが、女性のネットワークも必要になることがあるので、女性のコーディネーターも配置する方向で考えたい。
- 1人配置になっているが、実際には生涯学習課に直接依頼することの方が多いので、人数を増やすか本校のような生涯学習課との連携が図れば学校はよいと考えている。
- 複数のコーディネーターがいるとよいと感じている。(新たなボランティア人材の発掘、一人のコーディネーターに負担がかからないように)
- 町内3校を一人で担当しているので、もう一人増えるとよい。
- 本校は1000人以上の生徒を抱える大規模校として、お一人のコーディネーターの対応容量を超えている。「総合係」「生徒会」「学年」等の担当による個別のつながりによって回っている部分もあり、一人配置ですべてのニーズに応えていくことは限界を感じる。
- 3校が統合し、それぞれの地区からコーディネーターを1名ずつたてることができたので、本当によかった。その地域の歴史・風土をよく知る方々がなってくれ、総合的な学習の時間もスムーズに実施できるようになった。
- コーディネーターは、できるだけ長く継続してお願いできるとよい。本校は、現在複数配置になっているが、今後も複数配置が望ましい。
- 本校では、毎年度複数(2~3名)のコーディネーターが活動しており、それが学校支援ボランティアなどの継続的な活動につながっている。また、コーディネーター自身がボランティアとしても活動しており、とてもありがたい。
- 本校ではPTA事務が1名おり、その方ともう1人が地域協議会のコーディネーターである。PTA事務は午前中職員室で執務しているため、連携が十分にとれる。
- 地域コーディネーターの継続的・定期的な活動により、学校と地域の連携がよりスムーズになり、学校における教育活動の充実が図られている。地域とともにある学校づくりを進める一助となっている。コーディネーターの意識や意欲等によって、活動の内容・質が変化すると考える。
- 学校のニーズ、地域のニーズを相手の実態に応じてとらえ、伝えていくことが求められると思う。

- 学校の事情を理解し、かつ地域の人材に人脈が広いことなど、コーディネーターとして適任の人材は少ないと思われる。そのため、町の社会福祉協議会等の経験者が適任と考える。
- 地域の人材に通じており、学校で学習支援をお願いしたときに的確に人材を集め、連絡調整ができる方がコーディネーターとしていてありがたい。
- 中学校区に一人ぐらいつコーディネーターがいると学校側から相談しやすいと思う。そして、担当する学校の生徒の様子をよく理解している方なら、適切なボランティアを紹介してくれると考える。また、地域の人材を紹介してもらい、ボランティアとの交流が継続的となるようにしたい。地域と共にある学校であるために。
- コーディネーターに依頼し、情報を提供していただいても、学校の授業の中で人材活用をするまでに時間がかかる。学校の現状との調整が、円滑にできるとよいと思う。
- コーディネーターになっていただく方は、例えば、地域のリーダー的存在となるPTA役員や学校職員の中で地域と密接に関わる教員（地域連携教員とチームを組める人）など、学校の実態に応じて決めることで効果が上がると思われる。
- 地域で活動している団体をつなぐ役割をしてくれる方、一方的な協力ではなく、相互の活躍の場として考えてくれる方にコーディネーターをお願いしたい。
- コーディネーターの人選がまず重要であると思う。地域の人的、物的、歴史的な資源に精通されていて、かつ学校教育への理解も深い方をお願いできると学校は助かる。
- 学校の実情を理解し、積極的に協力してくれる方を望む。
- コーディネーターが地域にしっかりと人脈をもち、学校の要望に対して前向きに対応してくれるので、地域の人材を大いに活用することができている。適切な配置に感謝している。
- 現在は、中学校区で1名の配置となっている。小学校での様子や児童生徒の様子もよく理解してくれており、ありがたい。
- 学校の活動をよく理解して、地域との橋渡しをしてくれる人物をお願いしたい。
- 配置については、地域に明るい方が適切だと思う。
- 学校や生徒の実情を十分に配慮した上で、生徒に有益な活動を先生（地域連携教員）と協議しながら企画、運営、支援してもらえると助かる。
- コーディネーターと連絡を取り合うと、すぐに動いてくれるので感謝している。
- 図書館整備、読み聞かせ活動など、学校とボランティアの橋渡しをしてきている。また、ボランティアの中心となって活動を計画し、実践している。
- 学校の実情や実態をよく理解し、学校にとってやりやすいような形で支援を行っていただけるととてもありがたいと思う。
- 学校教育の実践のために、学校側の求める人材や情報を集めることのできる能力を備えた方や、時間に都合がつく方がいるとよい。
- 学校の要望を聞き、教育活動に意見しすぎずに支援してくれるような人材は、なかなか見つけるのが難しいと感じる。
- 本校では、コーディネーターとして活躍してくれる人材に声をかけている段階である。学校の実情をよく理解し、実情に応じて協力してくれる人材を確保できればと思う。
- 地域によって学校支援ボランティア活動に対する温度差があるので、コーディネーターを見つける難しさにもつながる部分があると思われる。養成講座等実施してもらっているが、県内のコーディネーター間でもどんどんネットワークを広げていき、より多くのコーディネーター候補者の情報もいただければありがたい。
- 学校が独自でコーディネーターを見つけていくことは、現実的に難しい状況だ。今後、県や市と協力し適任者を探していく必要性は感じるが、地域連携教員のみでは限界がある。また、「学校支援ボランティア」「地域連携」に関して、教職員を含め県民に広く理解してもらう必要もあると思う。
- 一個人ではなく、地域・学校に密着して活動を続けている組織またはそのメンバーがコーディネートして下さる体制でないと、長く学校に関わってもられない。残念ながら本校学区ではそれが見つからないでいる。
- コーディネーターとして適任の方を見つけることが難しいことと、見つけて依頼してもなかなか引き受けしてもらえない現状がある。
- 学校独自でコーディネーターを依頼・選出する場合、どのような段取りで取り組んでいったらよいのか、その方法についてぜひ教えてほしいと思う。
- 学校単位では、コーディネーターに適した人材を見つけることが難しいと感じている。
- 地域にコーディネーターをしてもらえるような人材が見つければよいが、なかなか引き受けしてもらえないという状況もある。配置が望ましいものの、なかなか難しい面もある。
- 学校だけでは、どのような地域人材がいるのかを把握するのが難しい。町教育委員会の生涯学習課などと連携し、情報の提供をお願いし、確保に努めていければと思う。
- どのような手順を踏んでコーディネーターを配置することができるのか、よくわからない。
- 学校独自でコーディネーターを探すのは難しい。地域の方はいろいろなボランティア活動に積極的・協力的であるが、まとめ役的なコーディネーターは荷が重いと感じていると思う。コーディネーター養成講座を紹介しても参加者はいない。
- 各学校裁量では、進展は難しいと思われる。
- コーディネーターが恒常的に活動できるように、活動の拠点となるような場所があるとよいが、学校施設に余裕がなく、非常に厳しい。
- コーディネーターも仕事を持っている。私も担任しながら地域連携教員をしているので、お互い忙しく、なかなか打合せをする時間がない。子どもたちに多様な教育活動をさせることはできるが、教師の多忙感が増える。（日程調整や打合せなど）なるべく、先生の負担にならないようにしたい。
- 地域連携教員の授業時間や学校業務が多すぎてコーディネーターと話すところではない。
- 学校教育の中でボランティアを依頼したい活動があるときに、コーディネーターに依頼すれば人材を確保していただけるような体制ができていると、教職員の負担も軽くなる。
- コーディネーターも仕事をもっているが、時間を割いて取り組んでくれるのでとてもありがたい。さらには、定例的に話し合いをもち、地域連携教員との交流を深めていけるとよいと考える。

- 本校では既に流れができており、私が引き継いだ時点で特に苦労することはなかった。この流れができるまでが大変だったと思う。校内で組織化でき、担当者が替わっても、例年通りに活動できて、改善していける体制づくりが困難なのだと思う。コーディネーターが辛抱強く、その作業に向き合ってくれるかがひとつのカギになる。
- 職員数にある程度余裕のある規模の学校は、地域連携教員として重きをそちらに向けて活動できるが、小規模で、いろいろな立場で多くの校務分掌を兼務していると、どうしても活動が滞ってしまうことが多い。各校に位置づけているので、人的増員を検討していただきたい。
- 本町では、各学校にコーディネーターが配置されていないが、学校支援ボランティア活動が盛んである。まずは、地域連携教員が学校のコーディネーターとして機能することが重要ではないか。
- 担任をしていると地域連携の仕事は優先順位で後の方になってしまう。そうでなければ積極的に外部と連携を取って、コーディネーターの配置を進められると思う。
- 市で事業を立ち上げ、地域コーディネーターが配置されているためとてもありがたい。コーディネーターを通してボランティアを集めてもらっており、毎年同じ活動が継続して行えている。このことは、教員の負担軽減につながっているように思う。
- コーディネーターに力を発揮してもらえるように、実際の授業を見てもらったり、十分な打合せの時間を確保したりしていくことが大切である。
- せっかくのよい活動をどう情報発信し、どう広めていけるかが地域連携教員の課題である。研修でも話題になるが、担任をしているとボランティアが来校時に対応できない難しさがある。本校では、職員間で連携し対応するようにしているが、直接お会いし、あいさつ・説明等ができず、申し訳ないときもある。
- 組織の中で学校運営協議会を立ち上げ、その中でコーディネーターを位置づけ、新しい活動を展開していける体制を作っていくことを考えている。
- 係として活動するためには、授業時数や校務分掌のバランスを考慮してほしい。教員のニーズも地域の声も、話す時間がとれなくてはつかめないというのが現状である。
- 地域連携を重視していくのであれば、コーディネーターの位置づけや活動について体制整備をしていく必要があると思う。
- 校内の分掌にて、求められる内容の仕事をすでに行っている分掌があると思っている。
- コーディネーターが決まったところなので、大いに活用していきたい。しっかりコミュニケーションがとれるような環境を整え、連携していきたい。
- 本校では、研修や実践を通して、教員の地域連携への意識が変容し、地域連携活動が活発に行われている。問4a・c・eについては、コーディネーターの配置によるものではなく、教員の日々の連携に関わる実践によって効果が上がっている。現在、コーディネーターとの連絡は不定期で必要に応じて行っているが、今後は、定期的来校を視野に入れて、連携を深めていきたい。
- 教頭・学年主任・地域連携職員・コーディネーターの役割分担が難しいと感じる。
- 地域との関わり合いや、校内の仕事の分担の関係でコーディネーターとの関わりがないので、少しずつでもコーディネーターとの連携がとれるようになってほしいと思っている。
- 学校は、コーディネーターを養成するために積極的に地域の方に呼びかける必要がある。
- 以前、文科省の委託で学校支援地域本部事業に、教務として中心的に関わっていたことがある。幸い、地域に詳しく、また非常によくやってくれるコーディネーター3人に恵まれ、本当に充実した活動が行えた。一方で、「教員の負担軽減」という意味では、さほど大きな効果はなかったと述懐する。やはり、学校に関わるとなると、ほとんどお任せというわけにはなかなかいかないのが実情で、ある面かえって忙しかった職員もいた。検討課題だと感じる。
- 本校の場合、毎週1日、4時間程度来校して活動してくださっているので、ボランティアといえども、少しでも謝礼の額を増やすことができればと思う。
- 市で行っている事業の予算措置を今後も継続していただきたい。
- 予算措置などの配慮があると、より活性化すると考える。
- 活動にあたっての費用(謝礼等など)について、行政が予算化してほしい。
- ボランティアの志をもって無給で活動してくれる人が多いが、交通費や必要経費等については市町村等で予算化してもらえると活動しやすいのでは。
- コーディネーターは基本的にはボランティアであるが、活動の活性化のためには市全体として報酬(?)を予算化してもらえるとありがたい。
- 地域連携を成功させる鍵は、地域コーディネーターの力量や人柄と教職員の意識改革だと思う。その点で、本校はコーディネーターにとっても恵まれ、着実に教育効果を上げてきた。また、町からは、決して少ない額ではない地域コーディネーター報酬を出してもらえ、感謝している。
- 良好な人間関係のもとに、地域とつながっている方がコーディネーターの役目を果たしてくれているので助かっている。公的にこの役目を負う方を配置するならば、全てボランティアという訳にもいかず、経費の問題がからんでくるので難しいのではないかと感じる。
- 市の教育委員会の方針により、全校にコーディネーターが配置され、財政的な支援も行われている。今後も継続・充実を希望する。
- 学校により、コーディネーターの活動内容にバラつきがあるように感じる。どの学校でも活用できるマニュアルがあるとよいのではないかと感じる。
- 児童に挨拶をさせるには、まず教師から積極的に声をかける必要があるように、地域連携を社会教育の立場から学校現場に浸透させたいと考えるのであれば、地域の方やコーディネーターからも学校に声をかけていく必要があるのではないかと感じている。地域連携教員が地域連携に興味がないわけではないが、一歩が踏み出せないでいる。担任をしていたり、他の分掌などと比較して優先順位を考えたりすると、地域連携に関する業務は後回しになっている現状を、自分も含め、あちこちの地域連携教員から聞く。今の学校現場の状況から、「学校からの積極的な地域連携推進」に期待するのは難しいと感じている。もちろん、学校では「地域連携」や「コーディネーター」という言葉を意識する以前から十分に地域との連携活動は行っているし、必要性を感じれば新規事業にも取り組んでいる。現状のままであれば今のシステムで問題は無いが、今後さらなる地域連携推進を目指すのであれば、積極的に学校に働きかけをすることができるコーディネーターを養成していく必要があるのではないかと考える。そのためには「教師に授業力の向上」が求められているように、「コーディネーターにはコーディネート力」を求めていく必要があるのではないだろうか。お願いしやすい地域の方に委嘱するのではなく、予算と時間をかけて専門職に近い人材育成を行う必要があるのではないだろうか。(小学校の場合として書いて

ています。)

- コーディネーターが参加する研修の旅費等については、学校によって様々であると思う。コーディネーターの配置にあたり、共通のきまりのようなものが示されるとありがたい。
- 男性・女性各1名ずつコーディネーターを行政(生涯学習課)で確保して欲しい。(学校が探すのは、とても大変)
- 市の生涯学習課でコーディネーターを対象とした研修会を開催してくれているので、学校支援に対する理解が深まっており、積極的に活動をしてもらえている。
- 社教主事の資格がないにもかかわらず、校務分掌上携わっている。社教主事有資格者を各校に配置してほしい。
- コーディネーター配置に関しては、各自自治体の指導・協力が欠かせないと思う。
- 地域には、コーディネーター的な役割を果たしている人材はいる。しかし、その方々がコーディネーターを担っているという意識や自覚は少ないように感じる。そこで、行政が予算化等して、このような人材を養成し、各学校に配置できれば一歩先に進むと思われる。
- 町の教育委員会及び社会福祉協議会が学校のニーズに合う方を紹介してくれ、積極的に関わってくれるので大変心強い。
- 地域人材の協力を得ながらの教育活動は大切であるが、今後はさらに教育活動全体を見直し、学校外のスペシャリストを招きながら子どもたちに社会とつながる学習活動を進める必要があると考えている。学校で必要な人材をピックアップし、必要な人材を探すということは大変である。そこで行政サイドとの連携が必要であり、コーディネーターも行政とつながった人であるとうれしい。現状でも地域連携はある程度(十分?)行っているの、さらなる開拓の必要性に迫られていないのが正直なところである。
- 行政(市町教育委員会・生涯学習課)の積極的な支援が必要だと思う。
- 市の事業が軌道に乗っているの、コーディネーターの活動が円滑にできていると思う。
- コーディネーターを支える予算的な裏付けが十分になされるとよいと思う。
- コーディネーターを配置してほしい。市で動いて、他市のようなシステムを構築してほしい。
- 学校で地域コーディネーターを選考するのが難しいので、市などの行政で人選して任命するなどの体制ができるとありがたい。
- 市や教育委員会がコーディネーターを割り振って配置し、各種活動を企画、実践してほしい。
- 本校では、地域連携をするにあたって、地域コーディネーターと公民館職員の2つの窓口がある。ボランティアの紹介をコーディネーターに、外部団体との連携は公民館に依頼している。市教委がコーディネーターの設置をしてくれているのでありがたい。
- コーディネーターを選出する手順・方法が難しいので、市町村単位で人選してもらえるとありがたい。
- コーディネーターの配置状況や活動状況が、同じ区内でも市町によってかなり違っている。ぜひ、先進市町の取組を参考に、行政側で整備を進めてもらえるとありがたい。
- 本校は、支援本部が設置され、コーディネーターが配置されている。ただ、地域連携教員の研修会で県内の状況を聞くと、未設置・未配置で困っているとの声。本県では、素晴らしいふれあい学習課や市町に社会教育主事が配置されているので、ただ立ち上げてくださいではなく、状況に応じて行政が立ち上げの環境整備や後ろ盾になってあげてほしい。本市では、行政と学校の連携が非常にうまくいっているの。
- 市でコーディネーターを指名してくれているので、とても活動しやすい。
- 現在、学校支援ボランティアのリーダーやメンバーがコーディネーター的な役割を果たしてくれているが、できれば町や市単位で、明確に地域コーディネーターを配置してもらえたら活動の幅が広がると考えている。また、実際に活動するための資金がなくて困っていることもあるので、これも町や市単位で予算化されることを望む。
- 学校独自でコーディネーターを探すのは難しい。(主に関わっているのは保護者。保護者は時間に余裕がなかったり、地域についてネットワークがなかったりする方が多い。)生涯学習の観点から、地域のことがよくわかる方を紹介していただけるとありがたい。
- 行政で地域連携コーディネーターを配置してもらえるとありがたい。例えば、各地区の公民館職員に担当していただくなど。
- 公民館の職員がとても協力的なので、学校の依頼に積極的に関わってくれて助かっている。
- ぜひ行政主体で積極的にコーディネーターの配置をお願いしたい。
- 市もしくは、地域コミュニティ単位で、学校支援のためのコーディネーターに向いている人材のリストを作成し、情報を発信してほしい。
- すでに、学校支援地域本部事業が委託された中学校区では「地域コーディネーター」が継続して活動し、体制が整っているが、それ以外の学区では横の連絡が十分にできる「コーディネーター」が確保できていない。各教育委員会が「統括的なコーディネーター」を委嘱し、他地区にも連携を広げてほしいと考える。
- コーディネーターを市で予算化し、各校に配置できるとよい。
- 地域(市町)によって、地域コーディネーターの制度の相違が大きいと過日の研修会で聞いている。本校とすると、行政が主導的な立場をとり、その制度を確立していただけるとありがたい。
- 学校職員では十分な活動ができないため、行政関係から適切な方が、学校に配置されるとよいと思う。
- 市として、各校にコーディネーターが配置できるように支援してほしい。(学校での支援体制やコーディネーターの育成等)
- 市全体での養成を急ぎ、学校と連携しやすい体制を作ることが大切だと思う。
- コーディネーターの配置については、学校単位では難しい。市町教委などが当該学校へコーディネーターになり得る人材等の情報を提供することで、学校も動きやすくなると思う。学校独自でコーディネーターを見つけ、研修等にお誘いするのは、教員の負担増になってしまうと思う。また、小中連携を考えると、中学校区を単位として活動していくのが望ましいと思う。
- 本校は、地域との結びつきがとても強く、ボランティア協力の歴史もある。現在は、コーディネーターの役割を教頭が担っているが、連絡調整・文書の発送などの業務が膨らんでいる。コーディネーターには、学校の教育活動をよく理解した上で、地域との橋渡しとして連絡調整、文書の発送などの重要な役割も期待しているので、研修や報酬等も含めて、仕事に見合う行政からのきちんとした位置づけ等が必要ではないかと思う。

- 平日の活動も必要なため、務められる人材の情報提供や必要経費の予算化等をお願いしたい。
- 学校だけでなく、公民館の力も借りながら適切なコーディネーターを探したり育成したりできるとよいと思う。
- 学校単独でコーディネーターを指名することは難しい状況にあるので、市町村単位で各校のコーディネーター指名の支援(コーディネーターとして推薦するリストの提示等)をお願いしたい。あるいは、学校単位でコーディネーターを指名するのではなく、各地区に公民館との連携の下、コーディネーターを活動の内容ごとに配置していただき、各校が連絡をとり活動のコーディネートをしてもらう方法もよいと考える。
- コーディネーターの配置されている学校と、配置されていない学校では、地域連携推進のしやすさに差があるように思う。市教育委員会が全小中学校にコーディネーターを配置しているので、地域連携教員としてはとても助かっている。各市町教育委員会主導で各学校にコーディネーターを配置するよう、働きかけをしてほしいと思う。
- 地域に開かれた教育課程による学習活動を展開するために、コーディネーター配置に関する体制整備をお願いしたい。
- 現在、地域の人材活用に力を入れている最中であり、地域にも受け入れられ、協力を得られるようになってきている。実践を進める中で、コーディネーターの配置の可能性を探っていきたいと考えている。
- 今年度赴任したので、まず本校及び地域の実態を把握し、その後検討したい。
- 今後は、先進校の事例等を参考にしながら、コーディネーターの配置について実現できるよう努めていきたい。
- 公民館や生涯学習課と連携し、活動を充実させていく中で、コーディネーターとして協力可能な方を見つけていければと考えている。
- コーディネーターについては配置されていないが、地域の公民館や老人ホーム、読み聞かせボランティアなどと連携した活動を行っている。このように、ボランティアについて組織として統括されていない部分があるため、今後は地域コーディネーターと連携し、学校と地域をつなぐ役割を担っていきたい。
- ボランティアの数も多くはないので、現時点でコーディネーターの配置が急務ではない。今後、ボランティア経験者の中からコーディネーター的役割をする人材が見つかるかよいと考える。
- 本校は、以前からボランティア活動が盛んで、それぞれの活動ごとに組織ができているため、改めてコーディネーターを配置し活動してもらうのは難しいのではないかと考えるところがある。コーディネーターが配置されれば、もっと幅広く活動に取り組めるのではないかも思う。
- 地域コーディネーターの必要性は感じてはいるが、本校の現状では、2か月に1度、定期的にPTA本部の運営委員会で学校行事や学年行事について、情報を共有する機会もっているため、その中で、ボランティアや活動支援についてある程度解決ができている。コーディネーター等の配置については、現状を踏まえ、今後の状況を見通し、効果的な支援の態勢を整える中で考えていきたい。
- 常時必要な仕事があるわけではないので、コーディネーターの活動や配置をお願いすることはとても難しいものであると感じる。
- コーディネーターの必要性を感じているが、人材不足によって配置できない場合は、学習ボランティアの中から協力的な何名かをコーディネーターに育てることも考えなければならぬと思う。コーディネーターの育て方などの研修があるとよい。
- コーディネーターを配置するにあたっては、経費・活動拠点・勤務態様などクリアしなければならない点が多々あると感じる。
- 本校であれば、身近なところにある公民館にコーディネーターが配置され、地域連携教員と連携が図れるとよい。
- 人、物、金、情報、時間の整備。
- 本校は地域連携がとても充実しており、さらにコーディネーターがうまくまとめてくれているのでとても助かっている。教員と保護者間の風通しもよく、情報等がきちんと交換されている。強いて言えば、個人情報の保護について、十分に注意していきたい。
- コーディネーターがまだまだ教員の下請け的な感じになっているので、コーディネーター同士の情報交換等も密に行って、学校に積極的に提案してもらえるとよい。
- コーディネーターがそれぞれ使命を自覚し、責任を果たし、滞りなく仕事をしてくれている。
- 他校におけるコーディネーターの活動事例を数多く知りたい。
- 長期間に渡ってコーディネーターとして地域とのつながりを蓄積しながら務めてくれるとありがたい。そのためにも、無理のない形で徐々に活動を深めていくことができればと、地域連携教員として協働しながら取り組んでいきたい。
- 行事やボランティア活動が計画的に行われており、その行事や地域の担当教員が決まっている。
- 幸いにも、学区には地域と結びつく施設などが多く存在するので、学年主任が中心となって学年の児童が地域に出ていくことができる。本校の地域連携のスタンスとして、地域の力を大々的に借りるのではなく、ちょっとした力で未永く続けられる活動(見守り、給食等)を行っている。
- コーディネーターに人材を探してもらい、学校から連絡をするのだが、引き受けてもらえないことがある。コーディネーターは人物紹介が多いので、このようなことが起きてくるのだと思う。
- コーディネーターが2名いるので、意見を合わせるのに苦労する。そのため、コーディネーター会議が不可欠と感じる。
- コーディネーターのみならず学校支援ボランティアの高齢化が進んでいるので、継続が課題である。
- コーディネーターの活動を通して、保護者、地域の学校活動への協力と理解がより深まっているように感じ、とてもありがたい。
- 学校支援ボランティアが学校に来てよかったと思える、お互いに有益な学習活動を行うことが大切だと思う。
- 本校は、コーディネーターのほかにも自治会長など、地域の方の協力が得やすい。コーディネーターとしてやりやすい環境である。
- 本校は小規模校であるため、コーディネーターを介さずとも地域連携教員が直接、指導ボランティアとの連絡を行っている。それでも不都合なくこれまで来ていたが、指導ボランティアの高齢化が進み、世代交代が可能かどうか頭を悩ませているところである。
- 本校では、コーディネーターとの連携がよくとられていると思う。コーディネーターの力量次第で、学校と地域のつながりの深さが決まる感がある。
- 現時点で、本校がある地域にはコーディネーターの役割を果たす人はいない。町では、保健福祉センター内に中間支援センターが設置されており、学校支援ボランティアに対する問い合わせや相談に応じるようになってきている。必要に応じ、活用していきたい。
- コーディネーターの配置においては、地域間の意識の差が大きい。これまであまり学校支援ボランティアの活動が活発でない学校や地域においては、

コーディネーターの配置が難しい。また、世代に偏りがみられ、高齢化の傾向にある。

- 地域の方が自主的に取り組める内容の企画、推進が必要であると感じる。
- 本校では、優秀なコーディネーターが、先を見通した人材確保にまで尽力してくれている。コーディネーターの力量によって学校の負担感が変わる
ので、優秀なコーディネーターを育成することが必要だと思う。
- 地区ではずっと前から地域コーディネーターが根付いている。そのため、とてもスムーズに事業を展開できているように思う。
- 現在 2 年程度でコーディネーターが替わっているが、できれば継続してお願いできるとよい。
- 地域人材の開拓及びボランティアとの連絡調整をしてくれ、感謝している。
- 授業や行事などでお世話になり、とても助かっている。
- 本校では、地域と連携した教育活動が定着しており、年間の計画や定期的な打合せも行っている。学校での活動に必要な学校支援ボランティアに
ついて、コーディネーターは地域の窓口となって親身に活動している。
- 地域のコーディネーターを配置している学校の様子を見せてもらうと、とてもよい実践が行われており、本校でもさらに地域とつながった実践ができる
とよいと思っている。
- 現状は地域のコーディネーターはいないが、本校では保護者を中心とした学校支援ボランティアが活発に機能しており、地域連携教員等が中心と
なって、その調整を行っている。
- ボランティアの依頼はコーディネーターの人脈に依存することが多い。学校でどんなことが行われていて、どこに協力が必要なのかを見てもらい、コ
ーディネーターからも提案できるくらい学校をオープンにしていく関係づくりが必要だと思う。
- 学校職員とコーディネーターの密接かつ良好な関係を維持するためには、双方がコーディネーションを継続、そして年度をまたぎ引き継げる準備体
制を維持する必要と努力が不可欠であると考える。
- コーディネーターの配置がようやく決まり、動き始めたばかりの状況である。試行錯誤しながら本校の地域に適した地域連携のあり方をコーディネ
ーターとともに模索していきたいと思う。
- 地域のボランティアは、ほぼ固定し、毎年同じ方に学校から直接依頼したり、地域以外の外部人材の活用が多くなったりして、コーディネーターを通
すことが減っている。
- コーディネーターの配置は、必要だと思う。しかし、中学校の場合は、忙しくなってしまうかもしれないが、教員がコーディネートする形が、やりたいこと
ができて、現実的だと考える。
- 困りごとがあると公民館を訪ねる。地域をよく知っている方が公民館にいてくれると助かる。
- 地域の人材との連携は、必要に応じて学年が行っている。
- 現在の活動も充実しているが、コミュニケーションを密にし、さらに充実したものになるように努めたい。
- 本校のコーディネーター役の公民館長は、自ら児童の体験学習の講師をする等、精力的に活動されているが、常々、地域と学校は持ちつ持たれ
つの関係でうまくいくと話しており、学校からも地域にできることを行っていくことも大切だと考えている。
- 現在、学校と地域がよい関係にあるのは、よくコミュニケーションが取れているからだと思われる。他の地域では、コミュニケーションをとる機会がある
のかどうか、それを作り出すのも大変なのではないか、と想像するのですが…。
- 現在の勤務校が小規模特認校ということもあり、職員の配置数も多く、かなりの数の授業がTTで行えるなど、生徒一人一人に関わる時間が多い
こともあり、学校支援ボランティア等の必要性をあまり感じていない。
- 学校行事・生徒会活動・特別活動において、学校側とコーディネーター(教育委員会)との 1 年間を見通した調整期間がとれていない。地域連携教
員の入れ替わりがあるため、新しい活動をすることへの難しさと日程調整に難しさがある。
- 各校、実情に合わせたコーディネーターの役割があり、活用の仕方がある。以前の勤務校では、地域連携教員というシステムがまだ未構築な時代、
社教主事有資格者なのでその学校にいたコーディネーターと週 1 で打合せをする機会が設けられ、行事依頼や、ボランティア探しを依頼することが
できた。しかし、本校にはその機会がないので年間に顔を合わせるのも数回である。どの学校でも通じるプラットフォームがないと、連携教員はコーデ
イナーを活用できない。
- 学校・教員からの希望や要請をさらに具体的に話し合い、コーディネーターとも十分に協議して進めていきたい。
- 今年度からコーディネーターがついてくれたので、今後時間をかけて、アンケートの項目にあるような効果が見られるような状態を目指していく。
- 本校は、コーディネーターを配置して 2 か月程度であるため、まだ準備段階である。これからの活動が重要であると感じている。